

平成23年度第1回松山地域協議会会議録（抜粋）

日 時 平成23年5月14日（土） 午後1時30分～午後3時30分

場 所 松嶺コミュニティセンター 講堂

出席委員 14名

1号委員 齋藤 勝 志田 節子 佐藤 旭 今田 充代 阿部 茂 丸山 慶子
池田 重悦 阿部 春一 小田 和夫 石川 信一 遠藤 俊三 佐藤 修

2号委員 小野 與一

3号委員 日野 健吾

欠席委員 1名

1号委員 村山 安子

酒田市出席者

酒田市長 阿部寿一 松山総合支所長 太田 豊 地域振興課長 秋葉 弘毅
建設産業課長 難波 富也 市民福祉課長 久松 正一 地域振興課長補佐 後藤 晃
地域振興課主査 五十嵐昭一 地域振興課調整主任 石川 春市

傍聴者 0名

議事日程

委嘱状交付

1 開 会

2 市長あいさつ

3 委員・職員紹介

4 地域協議会について

5 議 事

(1) 会長・副会長の互選について

(2) 松山地域ビジョンについて

(3) その他

6 その他

7 閉 会

開会に先立ち酒田市長より、委員に委嘱状の交付を行う。

1 開 会・・・地域振興課長

2 市長あいさつ

この地域協議会は、合併時に各地域ごとに設置したものである。それまで、施策や制

度は各地域で独自に取り組んできたわけで、合併により一気に統一できるものもあれば、できないものもあった。また、地域独自の課題や振興策もあったことから、地域協議会を設けて、行政が取り組んでいる事業を説明したり、地域の要望や課題の解決について、委員のみなさんからご意見をいただいたり、或いは地域振興に関する提言をいただってきた。

合併から5年が経過し、合併時に約束した新市の建設計画等はほとんど達成した。諸制度についても、負担が増えたものもあれば減ったものもあるが、1市3町でバランスがとれるようにしてきた。

合併後10年を一区切りとすれば、今は残りの5年間に入ってきている。合併特例債や過疎債等の有利な財源を活かし、今後どんな地域づくりをしていくのか、酒田市のなかで松山地域がどういう役割を果たし、さらに発展していくためには何が必要なのかを地域のみなさんと語り合う時である。夏までに地域の将来像を描く地域ビジョンをつくる予定ですが、今後の5年間に何をどうやっていくのか、地域協議会のみなさんからご意見をいただくことになる。それぞれの立場で、地域全体の視点から様々な提言をいただきたいと思います。

3 委員紹介

地域振興課長が協議会委員及び職員を紹介する。

4 地域協議会について

地域振興課長が、地域協議会の目的、申し合わせ事項の確認、報酬の支払い、今後の開催予定等を説明。

5 議 事

(1) 会長及び副会長の互選について

支所長が仮議長となり、会長及び副会長の選任方法を諮る。日野委員より推薦案、佐藤（旭）委員より事務局一任案、齋藤委員より選考委員会の設置案が出され、採決の結果、選考委員会案が採用される。

選考委員を南部コミュニティ振興会齋藤勝氏、山寺コミュニティ振興会佐藤旭氏、松嶺コミュニティ振興会阿部茂氏、内郷コミュニティ振興会池田重悦氏の4氏に識見委員の小野與一氏を加えた5氏に決定する。休憩中に別室にて協議に入る。

再開後、阿部茂氏より、選考委員会では会長候補に石川信一氏、副会長候補に齋藤勝氏に決定したことが報告される。協議会に諮ったところ、全員賛成で、会長、副会長が決定した。

【会長あいさつ】

石川です。自治会連合会会長の職にあり、先例により会長の職を承りました。

新任ですので、不慣れな点もありますが、副会長の協力を得ながらこの協議会を進めていきたいと思えます。松山に住んで 75 年になり、地域のことは分かっているつもりですが、案外気がつかないこともあるものです。委員の皆さんからは大いに意見を出していただき、この松山地域の地域づくりをしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

※会長、副会長が決定したので、地域振興課長があらためて議事録署名委員について提案し、会長、副会長を除く名簿順により、今回は 2 番の志田節子氏を選任する。

(2) 松山地域ビジョンについて

地域振興課長が資料に基づき説明を行う。

日野委員 非常にわかりやすいビジョンである。あとは、これをいかに地域の皆さんと実践していくかである。まずは、これでスタートしてみてもどうか。

小野委員 1 点目はコミュニティの関係です。地域の人をつながりを作るつくることが大事であり、単に一緒にいるだけではなく、一緒に作業をしたり食事をしたりして協働の関係を構築することが重要である。コミュニティは地区にとって大きな役割を果たすものであり、今後とも大きく育てていく必要がある。年配者は様々な知恵を持っているので、子どもの健全育成に役立ててもらいたい。そういう機会を意図的に作り出すことも必要である。

私が以前角川にいったとき、地元の人には角川には何も無いと嘆いていましたが、そこには長野県出身の方が住んでおられ、その方は角川の自然のすばらしさに感動し、そこには宝の山があると言ひ、様々な情報を全国に発信している。松山にもすばらしい自然があるのですから、それを発掘するという認識が必要である。

もう 1 点は今回の大震災を踏まえての防災関係ですが、昨年南部地区も設備を整えてもらったが、今後も速やかに酒田市としての防災体制づくりを進めてもらいたい。私は 3 年前の集中豪雨を経験したが、いざとなると、どこへ避難するのか、誰が炊き出しをするのか混乱した記憶がある。今は各自治会の体制づくりも出来上がってきている。今後は地区で有機的に活動できるよう、実践的な訓練も必要である。

阿部委員 これから人の動きがどうなっていくのか見えない。小・中学生の児童生徒の減少には目をみはるものがある。少子化に対しては今まで具体的な対策は何もなかった。先進的な市町村では子どもの数が増加しているところもある。まねをしたからといってうまくいくかは分からないが、県内でも子どもの医

療制度を抜本的に見直す自治体や、若い人たちに住宅を取得しやすい施策を取ってきている自治体が増えてきた。松山地域の学童保育だけでは、未だ対策が不足している。親しみやすい環境づくりが見えない。人がいなくなっからどうしようかという状態にならないようにしなくてはならない。今後、子どもを生み育てやすい環境をどう構築していくのか、また、地場産業を今後どうやって育てていくのかが見えにくいものになっている。

小田委員 商工会では雇用促進事業の助成を受けて人を雇い、各自治会単位でアンケートをとったことがある。まだ一般には公表できないが、以前独自でアンケートをとったものと内容は似ていた。それによれば、少子化は何も良いことを生み出さないということであった。消費・生産にとってすべてマイナスに働くという結論であった。なぜ、少子化になったのかといえば、育てた親たちが利便性を求めた結果ではないだろうか。商工会ではこの問題に対して地域ビジョンにどう反映させるか昨日会議を開いた。その結果、この問題はそれぞれの地区で話し合うことにした。松山地区においては、子育て世代、青年世代、壮年世代といった世代別に話し合いをしていきたい。また、専門的な知識を持っている県の人材バンクの活用も検討している。

佐藤（旭）委員 先程の市長の挨拶にもありましたが、松山地域が今後、酒田市の中でどのような役割を担っていくのかが重要なことである。例えば私の地区では専門的に農業に従事している人は1割程度であり、若い人は仕事を求めてどんどん外に出て行く状態である。このような状況の中で、目の前にある課題に対して対策をとるのか、中・長期的に根本的な対策を施さないといけないのか今一度考える必要がある。このままでは若い人の雇用の場も生まれず、だんだん限界集落へと進んでいく。地域協議会でも酒田市の中で松山地域がどうするのかを話し合うことが重要である。

小野委員 雇用の場をどうするかはなかなか難しい問題である。私の勤務する鶴岡市では駅裏の団地にオンリーワンの独自性をもった企業が多い。松山地域には人が居ないから企業が来ないのか、企業が無いから人が集まらないのか、どちらが先かは分からないが、広い視点から見れば新庄で新幹線が止まっていること、高速道路の進捗も遅々として進まないことが影響している。雇用の場の確保するためには、この地域に住んでいる私たち皆が声を大にして促進運動をすることが必要である。子育てについても安心して生んで、育てることができるためには具体的に何をどうするのか。商店の販売力についても意識改革が必要である。商工会でも、地域には商店が少ないが、販売力は一味違いますよというような意識改革をしていかななくてはならない。ビジョンで

は具体策をもっと詰めることが必要である。

遠藤委員 以前から言っていることだが、山寺の多目的グラウンドで大会を開くと 700～800 台の車が集まってくる。案内看板がないために迷う人がかなりいる。要望はしているのだが、未だ解決していない。それから、自販機が無いために飲み物を買うことができないでいる。大会当日だけでも出店はできないものか商工会に相談したことがあるが、数がまとまれば対応可能だが、不特定多数では無理だと対応を断られた経緯がある。青少年育成の観点からも検討してもらいたい。

丸山委員 主婦の立場からすると、地元の商店の食材の少なさには驚かされる。松山 A コープも無くなった。平田と余目のスーパーに行くと、かなり松山地区の人が居る。車のある人なら良いが、年配者等はかなり困っていると思う。私も、なるべくなら地元にお金を落としたいが、地元の商店には同じものしか置いていない。改善する気持ちや向上心も低く、商工会からもっと指導してもらいたい。

小野委員 A コープに以前勤務していた立場で説明すると、当時は改装して営業を続ける予定でしたが、地権者から土地も買ってもらわないと困ると言われた。用地買収の資金繰りがつかないため、最終的に解体撤去となってしまった。今思えば、単なる商店というだけではなく、地域コミュニティとしての役割も果たしていたと思う。商店が無くなるということは地域のコミュニティが無くなることである。

(3) その他

支所長と地域振興課長が平成 23 年度松山地区の主な事業と地域づくり予算について、資料に基づき説明する。

今田委員 平成 22 年度の案内看板の設置事業とはどういったものなのか。

建設産業課長 観光案内地図の作成と、拠点商店の入り口にある手作り風の看板の作成である。

今田委員 道路上に設置する案内看板はどこで設置するのか。

太田支所長 その施設を所管する部署で対応することになる。ただ、所管課まかせではバラバラな看板になるので、支所にプロジェクトチームをつくり、どこにど

のような看板をつくるか、また、統一性をどうもたせるのか等を検討させている。その後に過疎計画に盛り込んでいくことになる。

今田委員 以前、この場所に大きな観光案内看板が建っていたが、今は無くなった。一目見ればわかるような大きな看板をまた設置できないか。

地域振興課長 以前の看板より小型ですが、支所の敷地内に案内看板を設置している。なお、プロジェクトでも検討してみる。

小野委員 地域づくり事業の中の青少年育成事業は長く続けてもらいたい。学童保育は働きながら子育てをすることができるのでありがたい。防災施設も計画的に進めてもらいたい。デマンドタクシーについてはよくわからないので説明していただきたい。

太田支所長 デマンドタクシーについて説明する。

日野委員 市街地の高校に通う生徒で、砂越までバスで行き、そこから電車を利用する人がいるが、数分の差で電車に乗れないでいる。なんとかして欲しいという要望がある。あと、眺海の森へいっても遊ぶ場所がないという声を聞く。旧朝日園の庭にある飛行機の遊具を眺海の森へ持って行って再利用できないものか。

太田支所長 遊具については、旧朝日園の解体に合わせて検討したい。新たに眺海の森へ設置するときは、眺海の森全体の整備計画の中で考えていく。

齋藤委員 南部コミュニティセンターの駐車場が完成したが、勾配がきつくて利用しづらいものになっている。なんとかならないものか。

太田支所長 所管課と協議してみる。

石川会長 ほかに無いようですので、これで第1回松山地域協議会を閉会します。